

## 第2章 加古川市の現況と整備構想策定地区の選定

### 2-1 位置



表2-1 加古川市の概況

(平成14年10月10日現在)

面積	138.51 km <sup>2</sup>
東西最長	15.83 km
南北最長	17.85 km
海拔最高	304.2 m
海拔最低	1.4 m

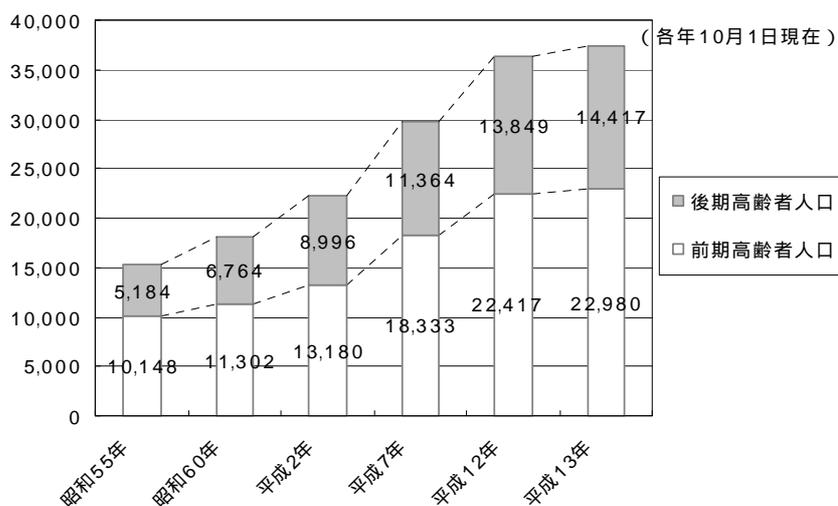
(資料：加古川市「加古川市統計書(平成14年度版)」  
平成15年3月)

### 2-2 高齢者数と身体障害者数の推移

#### < 高齢者数とその比率の推移 >

本市の総人口は平成14年度で推計266,558人、世帯数は推計92,016世帯になり、横ばいの状態となりつつありますが、高齢者数は年々大きく増加しており、平成14年10月1日現在で65歳以上の高齢者数は39,103人となっています。

総人口に占める高齢者人口の割合(=高齢化率)は、平成14年10月1日現在(住民基本台帳による)では15%、そのうち前期高齢者(65~74歳)は23,895人、後期高齢者(75歳以上)は15,208人になり、約7人に1人が高齢者で、後期高齢者比率は39%となっています。



(注：平成14年データは住民基本台帳人口、その他は国勢調査結果による)

図2-1 高齢者数の推移

### < 障害者数とその比率の推移 >

本市の障害者手帳交付者数は、平成 14 年度末現在で身体障害者手帳は 6,695 人、療育手帳は 1,079 人、精神障害者福祉手帳は 377 人、延べ 8,151 人となり、これは総人口の 3% を占めています。また、障害者手帳交付者数は年々増加しており、特に身体障害者手帳交付者数は高齢化に伴って今後も増加する傾向にあると思われます。

身体障害者手帳交付者の障害別内訳をみると、最も多いのが肢体・体幹不自由の 59.7%、ついで内部障害の 20.4%、聴覚障害、視覚障害の 9.4% となっています。

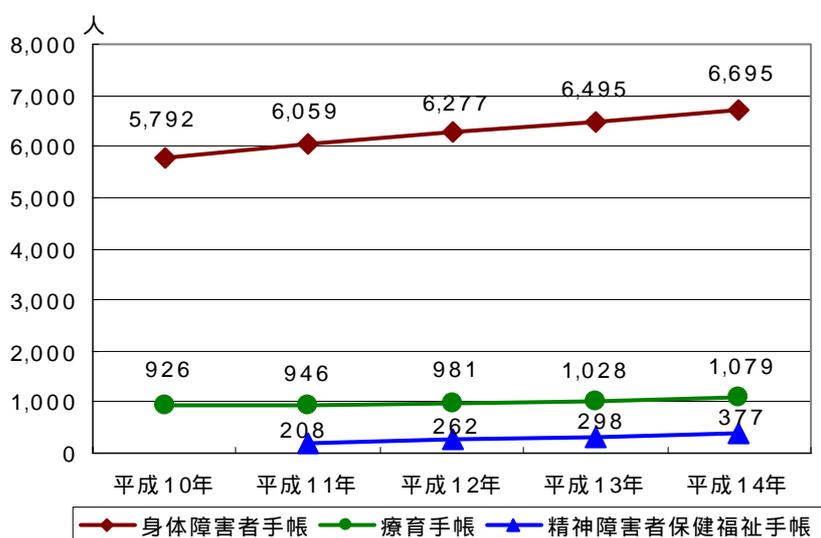


図 2 - 2 障害者手帳交付者数の推移

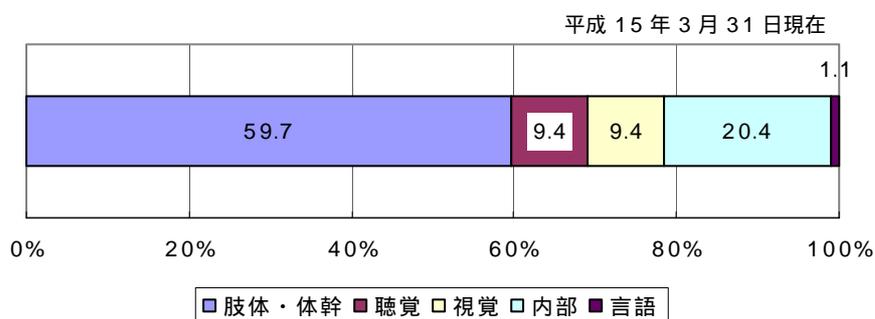


図 2 - 3 身体障害者手帳交付者の内訳

## 2 - 3 整備構想策定地区の選定

本市の現況等を踏まえ、この基本構想で重点整備地区として位置付け、整備構想を策定する地区を選定しました。

市域内の鉄道駅としては、JR 5 駅、三木鉄道 3 駅、山陽電鉄 3 駅の計 11 駅があります。このうち、交通バリアフリー法でバリアフリー化を求められる特定旅客施設の要件（一日あたり利用者数が 5,000 人以上）に該当する駅は、JR 加古川駅、JR 東加古川駅、山陽電鉄別府駅の 3 駅となります。

中でも JR 加古川駅、JR 東加古川駅については特に利用者数が多く、また、駅周辺では、JR 山陽本線等（加古川駅付近）連続立体交差事業をはじめ、多くの関連事業が実施、予定されており、特にバリアフリー化が必要とされる重要な地区と考えられます。都市基盤整備とあわせてバリアフリー化を進めることで、早期にバリアフリー化を実現できる地区でもあります。

これらの理由から、重点整備地区として位置付け、整備構想を策定する地区として、加古川駅周辺地区、東加古川駅周辺地区の 2 つを選定しました。

表 2 - 2 整備構想策定地区

駅名			一日あたり利用者数(H13) …5,000人以上	駅周辺の関連事業等
JR 西日本	山陽本線	加古川	41,672	・ JR 山陽本線等（加古川駅付近） 連続立体交差事業 ・ 加古川駅北土地区画整理事業 ・ 幹線道路整備
		東加古川	27,386	・ 駅橋上化 ・ 駅前広場整備 ・ 幹線道路整備
	加古川線	日岡	1,310	
		神野	3,031	
		厄神	2,213	
三木鉄道	厄神	402		
	国包	26		
	宗佐	34		
山陽電鉄	尾上の松	3,813		
	浜の宮	4,367		
	別府	8,449		



注) 1日平均乗降者人員は、定期券所持者とそれ以外においてそれぞれ算出した値の総数

図2 - 4 鉄道駅別年間乗車人員及び1日平均乗降者人員(平成13年データ)